

## 中井町オンデマンドバスの諸課題について

### 1. 今後の運行方法（運行地域の限定・セミデマンドなど）

平成 25 年 1 月からオンデマンドバスの実証運行を開始したが、現在の形態での実証運行期間は 5 年間（平成 30 年 3 月）である。また、町は経費として毎年約 2,500 万円支出している（総経費は約 3,000 万円）。中長期的な視点から、経費や住民のニーズを考慮した持続可能な交通を目指す必要がある。

#### ○今後

現在の運行形態に加えて、

- ・交通空白地域限定の運行
- ・乗合タクシーの導入又は併用運用
- ・セミデマンド運行の導入（時間帯限定、ルート限定）

以上のシステム導入も視野に入れつつ、運行事業者と協議していく。

※乗合タクシーとは、10 人以下の人数を運ぶ乗合自動車のことである。

※セミデマンドとは、運行時間帯や運行ルートに制約を設けるデマンド型運行のことである。

### 2. 二宮駅及び秦野駅への乗り入れ

平成 25 年の運行開始時から二宮駅・秦野駅への乗り入れ要望は多い。また、平成 27 年 3 月の震生湖線減便に伴う代替手段として地域の足を確保する必要がある。

これまで、駅への乗り入れの他、駅近くに駐車場を借用するなどの方式を協議してきたが、既存の路線バスや現在のデマンドバス利用者への影響を考慮する必要がある、課題となっている。

#### ○今後

利用状況や走行距離延長に伴う他の予約への影響、既存の路線バスなどへの影響などを考慮しつつ、実証実験中に、ある程度の期間でも乗り入れを実施できるよう、協議していく。

### 3. 乗降ポイントの追加

路線バスの比奈窪～国府津線が今後再編される予定となっており、ダイヤ改正後に利便性を維持するため、代替手段として橘団地に乗降ポイントを追加する。また、地域のニーズや要望に基づいて、新たに乗降ポイントを設置する。

#### ○今後

橘団地への乗降ポイント設置に向けて、設置時期などを協議していく。また、秦野駅・二宮駅・

南が丘など要望が多い場所へのポイント設置に向けて引き続き協議を続ける。

■表 1 追加したい乗降場所

●路線バスが再編された場合の代替手段として必要とする乗降場所
・橋団地…………乗継拠点
●追加に向けて協議を行うポイント
・秦野駅 ・二宮駅 ・南ヶ丘センター                      など

#### 4. お試し利用券

交通弱者の利用を確保するオンデマンドバスの利用促進と町民の利用定着を図るため、地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）を活用して、お試し利用券を発行する。併せて、今後のニーズを把握するため、アンケート調査も実施する。

##### ○実施方法

お試し利用券にアンケートを添付したものを配布する。配布対象者及び配布方法については、既存の利用者への影響や利用状況を考慮し、決定する。

#### 5. 今後に向けて

上記の課題を踏まえた上で、将来を見据えた中井町オンデマンドバスの運行見直しを検討するには、

##### ①原則

- ・交通空白地域の解消と交通弱者の足の確保
- ・将来にわたって持続可能な交通手段の構築
- ・既存の路線バスや現在のデマンドバス利用者への影響を抑える

##### ②検討のポイント

###### ・運行方式

セミデマンド（運行制約を設ける）や乗合タクシー（小型化）も視野に入れる。

例）交通空白地域ー需要が高い場所（駅・買い物場所）

###### ・値段

町内・町外以外の新しい運賃設定も検討する。（路線バスよりも高く、タクシーよりも安く）

※参考（路線バスの現金運賃）

比奈窪－秦野駅 310 円（日赤病院経由）、330 円（震生湖線）  
比奈窪－二宮駅 310 円

・評価指標

運行の継続や計画の見直しのための指標を考案する。

例) 利用率、輸送人員

※参考（中井町地域公共交通総合連携計画 目標値）

- 目標 1：公共交通に対する満足度向上…平成 24 年度：18.8%→平成 29 年度：25%
- 目標 2：オンデマンドバスの利用者数及び登録者数の増加
  - 1 日当たり利用者数…平成 24 年度：約 10.6 人/日→平成 29 年度：40 人/日
  - 登録者数……………平成 25 年 2 月末現在：1,429 人→平成 29 年度：約 3,000 人以上
- 目標 3：日常の交通行動の不便さを感じる人の減少…  
平成 24 年度：52.0%→平成 29 年度：40%